

甲奴郷土史だより

第 25 号
2022 年 2 月
甲奴郷土史
研究会発行

『甲奴郷土史だより』を振り返る

あの記事をもう一度…

これまで二四号発行された『甲奴郷土史だより』。藤原一三先生を始め多くの先輩方が、「甲奴の郷土史」を大切に思い、後世に残そうと活動してこられた。その深い学識と研究に裏打ちされた、「足跡」をもう一度読み返してみようと思う。



【甲奴郷土史だより 第一号から】

甲奴町内の狛犬について

藤原一三

狛犬の起源

多くの神社の社頭に見られる狛犬の起源は、中国の漢の時代にさかのぼるといわれ、わが国へは平安時代に伝わり、初めは宮中の几帳・屏風などの動揺を防ぐために使われたので、小型の木造のものであった。中世には神社や寺院の守護として狛犬が使われるよ

うになった。桃山時代になると唐獅子と呼ばれ、障壁画や屏風絵の画題として愛好された。江戸時代には、それまで社殿内に置かれていたものが外に出され、形も大型になり石造のものが多くなった。

阿形と吽形

狛犬の多くは、社殿から見て左側に口を開いた阿形、右側に口を閉じた吽形がある。一つは向き合っているが、顔は参道の方を向いている。雌雄の区別は無いものが多いが、稀に性器を彫刻したものがある。また吽形の頭に一本の角を持ったものも見られる。

狛犬の姿勢

狛犬の台座上の姿勢の基本的な形は次の三つである。

一 お座り型…犬が普通に座る時の姿勢で、後ろ足を曲げて尻を地につけた姿勢。

二 仕切り型…相撲の力士が仕切りをする時のように、前足を曲げ、後ろ足を立てて頭を下げ、相手を威嚇するよう



◆狛犬 阿吽 出典：something news&日報



◆清涼殿の狛犬 出典：ameba

な姿勢である。

三 玉乗り型・・・前足を玉の上に乗せ、後ろ足で立つ姿勢である。



◆上・・・お座り型 須佐神社 ◆中・・・仕切り型 西野八幡神社 ◆下・・・玉乗り型 宇賀八幡神社

●甲奴町内の木造狛犬

甲奴町内の木造狛犬は、現在四対が知られている。

●宇賀八幡神社・・・二対

●宇賀吉備津神社・・・一対

●梶田八幡神社・・・一対

である。宇賀八幡神社の一対は、享保一七年（一七三二）作と伝えられるが判然としない。他の一対は、天明二年（一七八二）の作で、阿像の背面に「天明八 彩色願主瀬尾良碩」の銘がある。

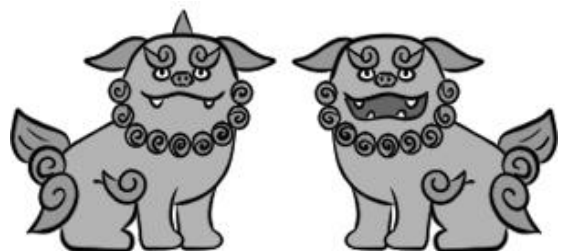
梶田八幡神社のものは製作年代不明である。以上の三対はいずれもお座り型である。吉備津神社のものは、昭和中期の作で玉乗り型である。

●甲奴町内の石造狛犬

甲奴町内の一四神社にある一五対と一躯の石造狛犬の概要は、次に示すとおりである。

- 一 狛犬の姿勢は玉乗り型一〇対、仕切り型三対、お座り型二対と一躯である。
- 二 建立年代は江戸時代のもの一対、明治時代のもの五対、大正時代のもの三対、昭和時代のもの六対、平成時代の単体一躯である。
- 三 石工の名前が分かるのは、福田八幡神社の「上下村土田太八」だけである。
- 四 特長のある彫刻として、
 - ① 西野八幡神社の阿像の左後ろ足には、子犬が抱きついており、吽像の首に鈴がつけられ、その鈴を右前足で踏んでいる。
 - ② 福田八幡神社の阿像には雄の、吽像には雌の性器が彫刻されている。
 - ③ 岩倉神社の阿像は、左前足で毬を、吽像は右前足で邪鬼を押さえている。
 - ④ 須佐神社の天保七年（一八三六）の狛犬は、三谷郡の割庄屋の外一四か村が寄進したものである。
 - ⑤ 太郎丸大歳神社の狛犬は、ハワイ在住の人が寄進したものである。
 - ⑥ 本郷八幡神社の阿像は、小さな玉を口に含んでいる。

岩倉神社	大歳神社	中船神社	福田八幡神社	本郷八幡神社	西野八幡神社	梶田八幡神社	栗島神社	宇賀八幡神社	琴平神社	塩貝神社	春日井八幡神社	武塔神社	〃	〃	須佐神社	神社名
拔湯	太郎丸	有田	福田	本郷	西野	〃	梶田	宇賀	〃	〃	〃	〃	〃	〃	小童	所在地
お座り	玉乗り	仕切り	〃	玉乗り	仕切り	〃	〃	〃	〃	玉乗り	仕切り	玉乗り	〃	お座り	玉乗り	姿勢(型)
七五	七六	七八	九七	九四	九五	九一	九五	一〇六	七三	七六	八〇	七五	四六	八〇	八〇	高さ(cm)
昭和六三	昭和五	昭和一〇	明治二〇	明治二九	明治三五	明治二六	明治四〇	昭和三	大正九	昭和五	大正一〇	昭和一〇	平成一四	天保七	大正八	建立年
	*ハワイ在住の人が寄進		*性器の彫刻あり。石工上下村土田太八	*阿像は口に玉を含む	*吽像が鈴を押さえる。阿像の足に子犬				*スリムな形である				*阿像のみ単体	*三谷郡内庄屋が寄進	*祇園会館前のもの	備考



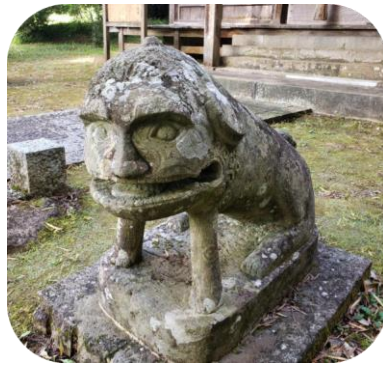
狛犬について

鶴本節子

故藤原一三先生が、丹念に町内の狛犬を調べられた記事を今回掲載した。神社に行くと、どこでも入口を守るかのよう
に、ちよつと怖い顔の阿吽像の狛犬に出会うことができる。し
かし、狛犬と言つてもそれぞれ特徴があることなど、気がつ
かないことが多かった。では、日本全国では、私の知らない狛
犬がいるのか、調べてみたくなった。

すると、おもしろい顔、かわいい仕草の狛犬や、まったく違つ
た生き物の像など、日本のあちこちの神社で参拝者を待つて
くれている『狛犬』と『神の使い』がいるのである。

例えば……



◆伊豆 天城神社 出典：Twitter



◆藤沢市 白旗神社 出典：藤沢市

右上の『狛犬』は、今でいう「ブサかわいい(不細工でかわいい)」
と人気があるそうで、その下の『狛犬』は、筋肉隆々でかっこい
いそうである。

他には、まるで曲芸をしているかのような、見ていると楽し
くなる姿の像、輛の浦には、かくれんぼをしているかのような姿

の像もあるようだ。



◆長崎県 諏訪神社 出典：鳥取市文化財団



◆福山市 輛の浦 百度石の狛犬 出典：狛犬いろいろ

そして、「神の使い」として狛犬のように鎮座する生き物。

●ネズミ●



●イノシシ●



●ハト●



◆出典：京阪電車

ネズミは、大豊神社(末社大国社)において、ネズミが道案内
をして祭神を火事から救ったという神話から『狛ネズミ』が鎮
座しており、護王神社では三〇〇頭のイノシシが祭神を災
難から守ったとの言い伝えから『狛イノシシ』が鎮座している。
また、三宅八幡宮には小野妹子が大分県・宇佐八幡宮から
石清水八幡宮へ八幡神を勧請した際、ハトが道案内をしたこ

とから八幡神の使いとしてハトが鎮座しているそう(すべて京都市内)。京都と言え、伏見稲荷大社のキツネ、北野天満宮のウシが有名であるが、各地にタヌキ、ウサギ、オオカミ、ツル、カメ、サルなどの他、龍や河童などの伝説の動物、シカやウマ、そして今年の干支 トラの像を神の使いとして神社の入り口に鎮座している。



狛犬のことを調べていると、『伊勢神宮には狛犬がない』そうである。

それは、狛犬が中国から伝わり、魔除けの意味から神社やお寺に置かれるようになったが、それは江戸時代に入ってからのことだった。伊勢神宮は、江戸時代以前から存在しているの

で、古くからの歴史を守り、狛犬は置いてないそうだ。因みに、注連縄も無いそうで、神聖な場所を示すものとして「榊」を用いる。榊は「塚になる木」という意味もあり、鳥居や宮の垣根に飾られている。



◆伊勢神宮・外宮 鳥居 出典：伊勢神宮

【参考資料】

・らくたび

山村純也著

会HP

・国際教養振興協

『木造の狛犬』が町内にあると知り、気になって梶田八幡宮と宇賀八幡神社へ行ってみることにした。

梶田八幡神社は、前側の木を伐採されているようで、数年前に「健康ウォーキング」で梶田八幡神社へ行った時よりも、周りが晴れやかになっていた。神社へ向かう道端に五輪塔がひっそりと建っていて、その時藤原一三先生が梶田にある石造物のことを説明してくださったことも思い出した。

木造の狛犬とはどんなものかとワクワクしながら鳥居を抜け、階段を上ったが、周りを何度見ても見つからなかった。木造だから腐らないように、拜殿の中に大切に収められているのだろう。宇賀八幡神社も同様、見つけることはできなかった。

しかし、藤原一三先生が調べられた狛犬を見ると、みな個性的で石工の腕の良さがよくわかる。いくつか写真を載せてみよう。



* 個性的な狛犬たち。表情もそれぞれ。

村上水軍の知恵 観天望気



『観天望気』という言葉をどこで存じだろうか？

観天望気とは、古来行われた天候予知の方法のこと。

天上の星の様子をみ、大気の動きをみて天気を予報する。気象学的にも意味のあるものが多く含まれ、天気俚諺でんきりげんとして伝承されている。

『天気俚諺』とは、天気に関することわざのことで、昔の生活は天候に支配されることが多かったため、天気、特に晴れや雨に関することわざが多い。例えば、

●夕焼けは晴れ、朝焼けは雨

●月や日(太陽)がかさをかぶると雨

などが、よく知られている。夕焼けは、日が沈む西の空が晴れていないと見ることができないので、夕方の西の空に雲がなく、きれいな夕焼けが見られたら翌日は晴れる可能性が高い。特に天気が西から変わることが多い春や秋に比較的良く当たるようだ。

また、『燕が低く飛べば雨が近い』ということわざも良く聞かれるのではないだろうか。甲奴町誌にも、このことわざが紹介してある。

ツバメは春に南方からやってくる渡り鳥で、飛ぶのが速く、エサの昆虫を捕まえるのが得意。雨が近くなると湿度が高くなると、空中を飛び回っている小さな昆虫の羽が重くなって、地上近くを飛ぶようになる。すると、それを追ってツバメも地上近くに降りてくるといふ。

これらのように、単に口伝えというだけでなく、科学的な根拠もつくものもある。

甲奴町で昔から言われている気象に関することわざには、

●鏡餅にひび割れ多ければ、夏ひでり

●寒の雨一粒は夏の千粒(寒に雨なければ夏日照り)

●鯉が飛び跳ねると雨

●朝霧は晴

●茄子の花が多くつけば日照り

●蚊の多い年は雨

●秋の日和と女心は日に七度変わる

などである。農業と結び付くことわざが多い。



『観天望気』と『天気俚諺』を調べていくと、次のようなことがわかった。

わが国最初の気象学の書ともいわれる【一品流三島村上流船行要術】という書物がある。かつて瀬戸内海を中心として活躍した村上水軍のひとり、村上山城守雅房が著したもの。

成立時代は足利義政(室町幕府八代将軍)の頃で、後花園天皇の年間、康正二年(一四五六)。

村上一族のはじまりは、南朝の懐永親王を奉じて因島にやってきたところから始まったとされる。日本海軍の先駆者で、局地気象学の先達。海軍組織・造船技術・遠洋航海術・海戦技術・気象学・天文・統計気象経験などに第一人者として長じていた。つまり、村上水軍が海の王者として活躍した背景は、きわめて高度な気象の知識があったからこそだといわれている。

る。

【船行要術】の巻第三に「天気之部」という項目がある。「夏の風」についての記述のなかに、

「夏南風強く吹くときは、陽気強くして急雨と知るべし」など、天候の変化は「何が発端となって起るのか」を具体的に記してある。まさに、地域を知り尽くしたからこそできる高度な天候予測であったことがわかる。



◆因島村上水軍
出典：広島ニュース 食ベタインジャー



◆村上水軍 能島城（復元イラスト）
出典：KAGAWA GALLERY-歴史館

このように、昔から人々は自分の住んでいる地域の空を見、風を感じて天気の子測を行ってきた。それは長い間、先祖たちなどが培ってきたものなので、またこれから先へ伝えていかねければならないものではないだろうか。

【参考資料】

- ・甲奴町誌 甲奴町誌編纂委員会
- ・滋賀県文化財保護協会 大下 義信
- ・村上(能島)氏 戦国大名研究

初代藩主 水野勝成と福山城築城四〇〇年

今年築城四〇〇年を迎える福山城。広島県内で天守閣がある城は、広島城とこの福山城の二か所だけで、現在一部昔の姿に戻すべく、復元の真つ最中である。

福山城の歴史を紐解いていくと、福山藩初代藩主 水野勝成から始まる。一六一九(元和五)年に大和郡山(奈良県)の城主 水野勝成が神辺城へ入り、深津・神石・芹品・甲奴の一部・品治・沼隈・安那の諸郡、合計一〇石余を領した。その後、一六二二(元和八)年に初代藩主となった水野勝成によって築かれ、江戸時代を通して藩のシンボルであり続けた。

調べてみると水野勝成はあまり知られていないが、間違いなく戦国一の最強な武将だったことがわかる武勇伝が多数ある。

* 一六歳の初陣で十五も首級をあげる。

* 一九歳で二千対一万という圧倒的多数を撃退。わずかの手勢で奇襲をかけ、北条勢を大混乱に、首級三百を道に吊るし、敵の士気を完全に削いだ。

* 二二歳で父の部下に悪行を告げ口され、切り捨てる。激怒した父・忠勝は奉公構(業界出入り禁止)のお触れを出し、一五年間放浪の身となる。(福山・姫谷焼の器職人に弟子入りなども経験)

* 大阪夏の陣では息子と(宮本武蔵が息子を護衛)参戦し、軍の最高責任者でありながら先陣に立ち、一番乗りを果たし家康に叱られる。齢五一歳。

など、上げればまだまだエピソードは出てくる。

そんな勝成だが、福山では破天荒から一転、『名君』と名高い藩主となるのである。

勝成は入国後領内をくまなく巡視し、瀬戸内海に面し、軍事・政治・経済上もつともふさわしい場所として、現在の福山城の位置に城を建設した。

築城の際には、有能な家臣を惣奉行や土工奉行に充て、大工・左官の棟梁としてそれぞれ京都から招き、その外諸職人を各地から呼び寄せたといわれる。勝成も自ら城北天神山下に仮住まいして指揮をとつたと伝えられている。

幕府からは、「御助力」として金一万二千六百両・銀三百八十貫目の拝借を許され、また

「位ニ公儀一伏見之城拝領品々ハ、御本丸御殿、松之丸御櫓、今伏見之櫓、茲月見櫓トモ云、御風呂屋、鉄御門、大手之御門等、練塀四百間」

のごとく、伏見城の遺構である伏見御殿・三階櫓・湯殿・大手門・筋鉄門・練塀四百間などが下賜された。これらはそれぞれ

解体して、海路福山へ運ばれ、福山城に偉容をそえることとなった。伏見城はいまでもなく、太閤秀吉の居城として、桃山文化の粋を集めて造られたものである。

入封四年後の一六二二（元和八）年には、城郭および城下町が完成、翌年正月には城開きが行われ、竣工した城を「敵追山

（鉄覆山）朱雀院久松城」と号した。鉄覆山とは、天守の北側一面を防備のため、鉄板で覆っていたことに由来するといわれている

る。今この復元を行っている途中である。後世には雅名として、「葦陽城」とも呼ばれた。また、完成した城下は「福山」と命名された。その理由は定かでないが、①水呑村の宝山に対して、②筋鉄御門の西内堀に松竹が叢生した小丘があった、③城山を蝙蝠山こうもりといい、幅が福に通じるからなど諸説がみられる。

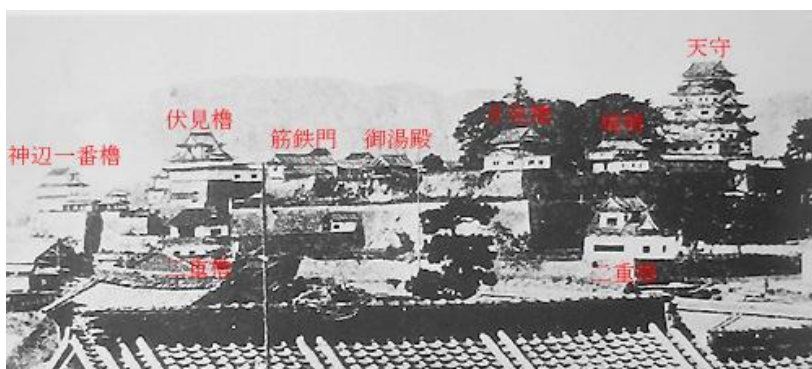


水野勝成肖像画（賢忠寺蔵）

◆水野勝成公
出典：福山城築城
400年記念事業
公式サイト

左◆福山城
（明治時代）
天守の裏側に黒い
鉄板が見える

出典：福山市
福山城築城
400年記念
事業公式サイト



◆福山城
（明治時代）
出典：攻城団

総計	り 盛 石		村数	村名	村柄
	砂下田 砂下田 砂下田 下々田 下々田 中田 中田 上田 上田	砂下田 砂下田 砂下田 下々田 下々田 中田 中田 上田 上田			
一、〇〇三石六〇九 一、二、三九六反〇二一	〇〇〇〇一 三・五・七・八・〇	〇一一一一 八・〇・三・五・六	三	亀谷、中領家、下領家	上々地
	〇〇〇〇〇一 二・四・六・七・九・〇	〇〇一一一一石 六・九・一・三・五・六	二	安田、小塚	上地
	〇 五 〇〇〇〇一 二・三・四・七・八・〇	〇〇〇一一一一石 三・四・七・〇・二・四・五	三	黒目、上下上領家	中地
	〇〇〇〇〇一 三・四・六・七・九・〇 〇〇〇〇〇〇 二・二・三・五・六・八・九	〇〇〇一一一一石 五・六・九・二・四・五	一一	太郎丸、二、矢多田、黒屋、森、水、永、拔湯、福、有、村、富	下地
	〇〇〇〇〇〇 二・三・五・六・八・九	〇〇〇一一一一石 五・七・九・一・三・五	五	斗増、小堀、階見、佐倉、有田	下々地

甲 奴 郡 『備後国福山御領御検地石盛窺帳』より

初代勝成から五代勝岑と続くが、勝岑が幼くして病死するまでの七十九年間、太郎丸村・拔湯村・有田村・福田村は福山藩の支配下であったが、勝岑が亡くなると改易となり、水野氏の旧領は収公されて幕府領となった。
元禄検地では、甲奴郡の石盛りは次のとおり。



◆福山城（復元イラスト）
出典：歴史浪漫



◆水野家家紋
出典：攻城団



◆水野勝成公 墓所（福山市賢忠寺）
出典：広島県の文化財

【参考資料】

- ・福山城築城四〇〇年記念事業サイト
- ・福山市史 中巻 国書刊行会
- ・シリーズ藩物語
- 福山藩 八幡浩二著

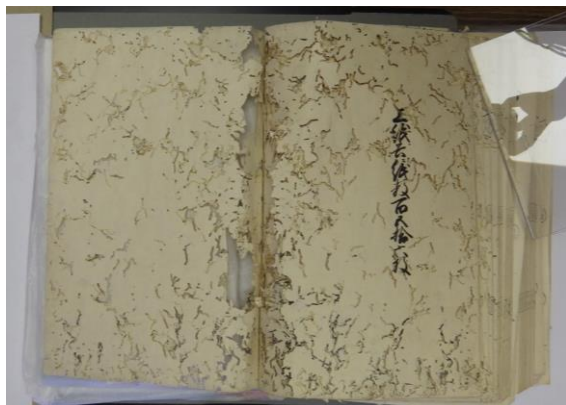
寛永 16(1639)年家督を勝俊に譲り、慶安 4(1651)年 88 才で死去、賢忠寺に葬られた。水野家の墓地は賢忠寺の北側にあり、勝成のほか父忠重、三代勝貞、四代勝種などの墓がある。勝成の墓石は高さ 5.1m の巨大な五輪塔である。

『元禄 検地水帳抜湯村』修復完了の報告

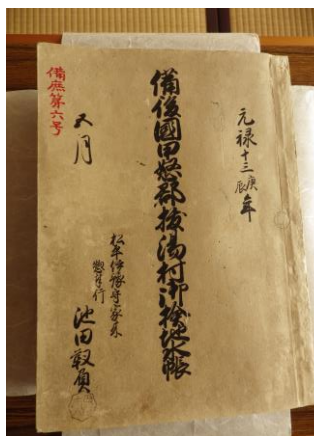
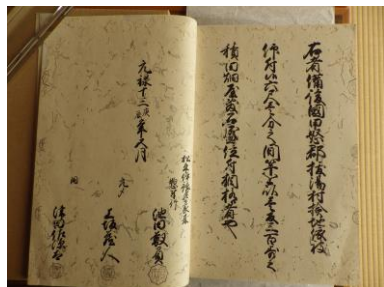
令和元(二〇一九)年に三次市へ寄贈された『元禄 検地水帳』ですが、裏表紙から数ページの虫食いがひどく、本の綴じも外れ、収納箱も木釘が外れてバラバラになっていました。

今年度、甲奴町振興協議会連合会より修復費を出してもらえることが決まり、七月に三次市教育委員会よりご指導を受けながら修復前の記録写真を撮りました。

教育委員会より広島市の表具師 富岡泰雅堂さんを紹介いただき、十二月に修復が完了しました。見違えるほどきれいになりました。



- 上の写真：修復前
虫食いがひどい状態
- 下左右の写真：修復後
虫食い・綴じがきれいになった



廃寺を訪ねて

町内には現在八つのお寺があるが、いろいろな事情で廃寺となつてしまったお寺が二一もあるのを「ご存じだろうか。須佐神社にあつた「神宮寺」や、本郷大宮八幡宮の神宮寺であつた「清泰寺」。今も名残が残っている廃寺も少なくない。

町内の狛犬を調べるために行つた金刀比羅神社(琴平神社)へ向かう道すがら、小さな建物の中にお地藏さんがすつぽり収まっているのを見つけた。その前には「宝積寺跡」とあつた。

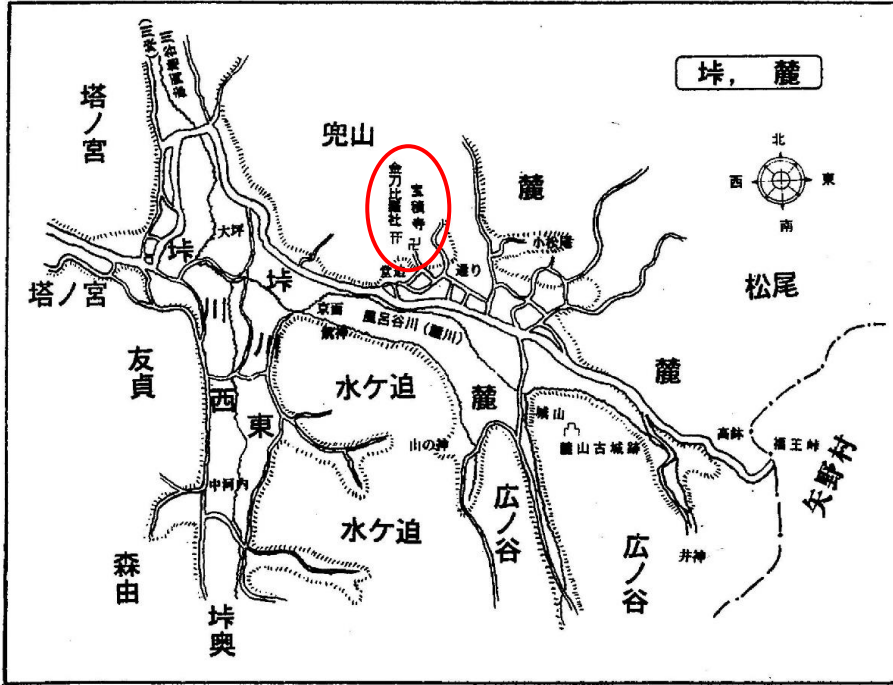
『仏通山宝積寺』

琴平山麓にあり、麓山城主長氏の菩提寺と伝え、歴代住職の墓地も近くにあつて、累代城主の墓石が寺跡の周辺にたくさん散在していた。昭和初期、子孫の手により一族の墓地は移動し、歴代僧侶の石塔数基のみ残る。

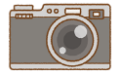
廃寺となつた後、居宅となつた。約九間に四・五間張りの棟の高い総茅葺きの豪壮な寺構えの建造物で、往時の遺構を残していたが、一九四二(昭和一七)年一二月七日失火により全焼した。



◆小童村・麓 地図 芸藩通志 小童村誌より

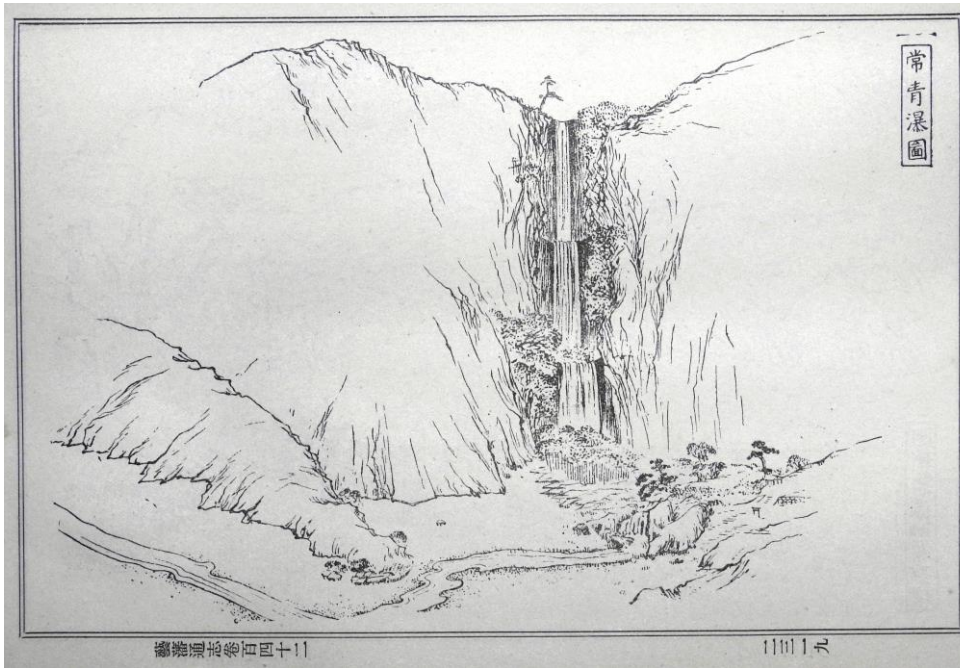


宝積寺の開基年代は不詳である。古老で郷土史に詳しい人の話に、
『麓山城主は宝積寺の位置に居館を構え住んでいた。すは戦となると、村人を招集して山に立てこもって布陣した。城主が没落して帰農した後、市場(地名)に移り屋号を与えられ、帯刀を許され世羅十二郷を治める大庄屋頭となったが、それまで代々の位牌堂があつて真言の寺であつた。』と。



備後国 名勝図

江戸時代に出回った『芸藩通志』は、現在でいう『るるぶ』や『まっぷる』のような旅のガイドブックのようなもの。その中で紹介されている、備後国の名勝の図を紹介する。



* 作木村 常清の滝

*今高野山

今高野山圖



江戸時代の人たちは、なかなか旅へ出られなかっただろうから、芸藩通志を見て楽しんでいただろうか。常清の滝も今高野山も、昔とあまり変わっていない。そんな風景が今も残っているということは、地域の人々が大切に、後世に残そうとしてくれたからだと思う。次の世代へ繋いでいく風景だ。

【参考資料】

- ・備後国名勝図 とんぼ草HPより



事務局より

- ・会員募集中です。ご紹介ください。
- ・会の運営や研修内容について、ご意見やご質問何でも結構です。お聞かせください。
- ・昔の話や地区の行事など、ご寄稿・お聞かせください。
- ・古い写真や資料等がありましたら、お知らせください。「甲奴郷土史だより」へ掲載していきます。
- ・出品物につきましては、責任を持って返却しますので、ご連絡を願います。

連絡先 鶴本 節子(カーターセンター)

☎〇八四七-六七-三五三五